

## ■高校野球のケーススタディー（第22回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

### ○ワンバウンドした投球が捕手のプロテクターとユニフォームの間に入ってしまった・・・さてどうなる？

第103回選手権兵庫県大会で実際に生じた事例について紹介します。

2死2塁で打者へ投じた初球のことで、ワンバウンドした投球が捕手のプロテクターとユニフォームの間にスッポリと入ってしまいました。それを確認した球審は、両手を上げてボールデッドにしたようです。さて、このケース、どのような処置になるのでしょうか。

公認野球規則では、投球が、捕手のマスクまたは用具に挟まって止まった場合は、ボールデッドとなり、走者は1個の進塁が許されると規定されています。（規則 5.06(c)(7)）  
このケースでは、走者を3塁へ進め、2死3塁、1B-0Sで試合を再開することになりました。

「正規の捕球」とは、インフライトの打球、投球または送球を、手またはグラブ（ミット）でしっかりと受け止め、かつそれを確実につかむ行為であって、帽子、プロテクター、あるいはユニフォームのポケットまたは他の部分で受け止めた場合は、捕球とはならないとされています。（定義 15）

また、2021年度の公認野球規則の改正で、「ファウルチップ」の取り扱いが変更になっていますので、合わせて紹介しておきます。

まず、「ファウルチップ」の定義を確認しておきましょう。

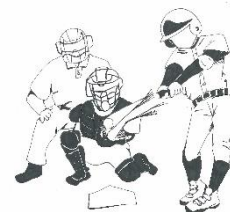


打者の打ったボールが、鋭くバットから直接捕手に飛んで、正規に捕球されたもので、捕球されなかったものはファウルチップとならない。ファウルチップは、ストライクであり、ボールインプレイである。（定義 34）

改正前の規定では、チップしたボールが、最初に捕手の手またはミットに触れてから、捕手の身体または用具に当たってはね返ったボールを、捕手が地上に落ちる前に捕球した場合は、ストライクになる旨、規定されていました。（改正前 5.09(a)(2)【原注】）

言い換えれば、チップしたボールが、捕手の手またはミット以外の用具や身体に最初に触れてから

はね返ったものは、たとえ捕手が地面に触れる前に捕えても、正規の捕球ではないため、ファウルボールとなっていました。



今年度の改正では、次のように規定されています。

チップしたボールが、最初に捕手の身体または用具に触れてはね返ったものを捕手が地上に落ちる前に捕球した場合、ストライクであり、第3ストライクにあたるときには、打者はアウトである。  
(規則 5.09(a)(2)【原注】)

つまり、最初に捕手の手やミットに触れなくても、直接、身体や用具に触れてはね返ったボールを地上に触れる前に捕球すれば、ファウルチップとしてストライクとなることとされました。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：日下部 心咲さん（3年）

イラスト：野口 真奈美さん（2年）森 雛里 さん（2年）